

令和2年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	静岡県立東部特別支援学校 PTA
学 校 名	静岡県立東部特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	94人

1. 使用状況

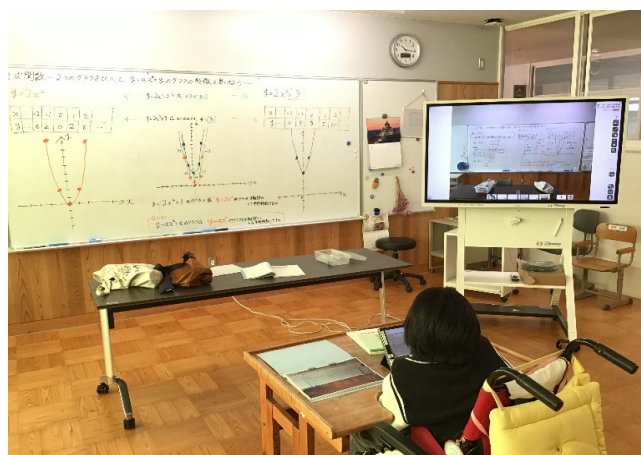
寄贈物品名	電子黒板
使用学年及び人数	高等部 1年～3年 生徒数 27人
使用頻度	毎日
使用状況	<p>本年度、授業等で電子黒板を使用した場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンやタブレットPCと連携してデジタル教材を活用(PDF、PowerPoint、写真、動画等) ・zoomを用いた遠隔交流(中央特別支援学校、田形農業高校)での活用 ・生徒会活動やホームルーム等で生徒が集まる場面での活用
物品の使用による変化や効果	<p>電子黒板は主に高等部職業コースで使用している。電子黒板があることによって印刷することなく、授業で必要な情報の提示もできるようになった。動画や写真を見せるだけならテレビでもできるが、電子黒板はアプリで連携することによって生徒も操作することができる。授業の中で、生徒自身が教師から提示された資料を選んで授業に参加することができるようになったという点でも重宝している。</p> <p>生徒からも、iPadと連動することで、1) 操作が簡易的であること、2) 電子黒板で書き込んだことがデータとして残っているため、振り返りがしやすい、などの意見が挙がっている。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>本校の当初の申込理由は、ICT教育の拡充であった。当初の目的通り、普段の授業で活用できただけでなく、交流活動においても頻繁に活用されるようになったことが大きな成果である。iPadと連動することで、必要な資料を生徒自身が選択することができるようになったり、ペンタブでiPadに書き込むことで、電子黒板を共有のホワイトボードとして活用したりする授業展開ができるようになった。この点は、電子黒板を導入したことによる大きな効果であると考えている。電子黒板が利用されることは多くなってきたが、特定の教師が使用することが多い。今後も活用事例を紹介し、電子黒板がより活用されることを期待したい。</p>
その他希望や所感など	<p>新型コロナウイルス対応のために、場合によっては遠隔授業と通常授業を合わせた授業づくりが求められている。本校も例外ではなくなってきたため、今後も電子黒板の活用方法を検討していき、より一層、ICT教育の拡充に努めていきたい。</p>

2. 活用の様子



iPadで撮影した絵本を電子黒板に映し、読み聞かせを行っています。肢体不自由児の読み聞かせにおいては車いすやベッド等の関係で、読み手と生徒との距離が遠くなります。そこで、電子黒板で提示することで遠い距離でも見やすくなります。

電子黒板に以前の授業の板書を映しながら、学習を進めている様子です。電子黒板を操作することで教師も操作できるだけでなく、iPadと連動させることで、生徒もその場で操作することが可能です。必要な時に資料を生徒が自発的に取り出せることが、生徒からも好評です。



iPadと連動することで、電子黒板をホワイトボードとして共有することができます。生徒がiPadから書き込んだことを電子黒板に映すこともできるだけでなく、教師が電子黒板に書いたこともiPad画面に反映されます。左と下の写真は2次関数のグラフをかいている様子です。iPadに2次関数のグラフをかくと、電子黒板に映ります。もし間違いがあった場合は、教師は電子黒板に書き込むことで指導することが可能です。

